

国 語

国語科においては、自分の考えを表現する力を育むことが課題です。そのため、定着に課題がある指導事項（資質・能力）を明確にして繰り返し学習すること、単元で取り上げる指導事項を指導するために適した言語活動を設定すること、ICTを効果的に活用して自分の考えを整理したり互いの考えを共有したりする場面を意図的・計画的に位置付けることが大切です。

I 目標の明確化や評価の充実のポイント

国語科では、指導内容を螺旋的・反復的に繰り返しながら資質・能力の定着を図ることを基本としていることから、1つの指導事項を年間で複数回繰り返し取り上げて指導します。そのため、年間を見通して単元の指導目標や単元の評価規準をバランスよく設定する必要があります。

これまでの全国学力・学習状況調査の結果から、本道の生徒は全ての領域において、自分の考えをもつことや考えを伝えることに課題が見られることから、「考えの形成、共有」の指導事項を取り扱う単元を年間指導計画に重点的に位置付けるなどして、学校全体で系統性を意識した組織的な学習指導の改善・充実につなげていくことが大切です。

II 指導計画の改善のポイント

言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科では、言語活動を通して資質・能力を育成します。そのため、当該単元の指導事項を指導するためにどのような言語活動が適切であるかについて、教師自身が確かめる必要があります。その際、教師自身が言語活動を実際に行うことで、あらかじめ生徒の学習状況を想定したり、評価のポイントを明確にしたりすることにつながります。

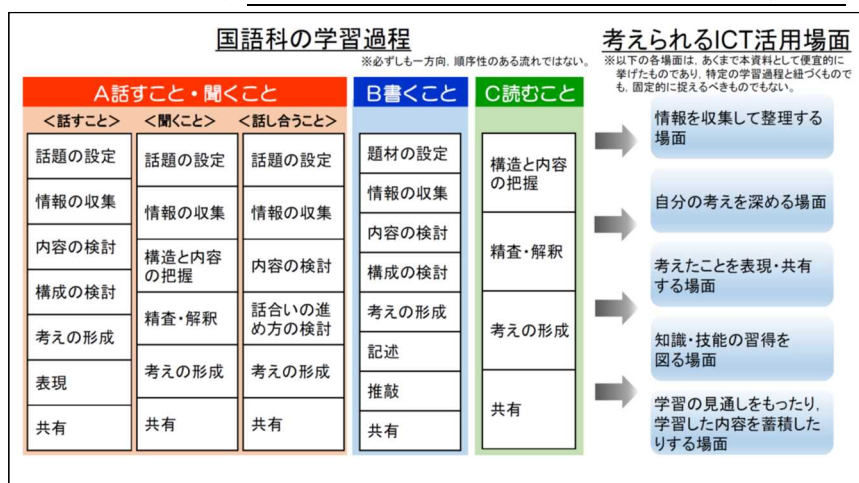
現在、本道の多くの学校において、言語活動を位置付けた学習活動が展開されるなど、国語科の授業改善が図られています。一方で、単元を通した言語活動が一方的な教師側からの提示によるものであることから、生徒が「何のために学ぶのか」という目的意識をもてないまま学習に参加している様子も見られます。単元計画を立てる際には、これまでの学習や日常生活の経験を十分に踏まえて言語活動を設定するとともに、生徒自身が学びを深めるための言語活動を選択、自己決定できるようにするなど、主体的な活動を意図することが大切です。

また、生徒が主体的に学習を進めるためには、教師が言語活動に取り組んでいる生徒の学習の過程や成果を評価し、その結果を生徒にフィードバックして学習の改善を促したり、生徒自身に学習の状況を捉えさせ、自らの学習の進め方を改善させたりする指導の充実を図ることが重要です。

III 手立ての充実のポイント

学習指導要領では、国語科の指導の改善・充実を図る観点から〔思考力・判断力・表現力等〕の各領域において学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けています。ICTの効果的な活用についても、この学習過程を踏まえて、活用場面を考えることが大切です。

具体的には、自分の考えを整理する際に、デジタルホワイトボードを用いて、付箋に書き出した考えを並べ変える学習活動を取り入れたり、互いの考えを共有する際に、デジタルホワイトボードを用いて、仲間の考えを比較・分類する学習活動を取り入れたりするなど、ICTを効果的に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることが重要です。



【学習過程に応じて考えられるICT活用場面の例】

自分の考えを表現する力を育む計画の改善

< 単元名 >

「登場人物の考え方や行動を批判的に読み、作品批評会を開こう」(第3学年) C 読むこと

< 単元の目標 >

- (1) 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。〔知識及び技能〕(3)オ
- (2) 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)イ
- (3) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

【I 指導事項の重点化】

・本道の課題を踏まえ、「考えの形成、共有」の指導事項を年間指導計画に重点的に位置付け、繰り返し学習指導の改善・充実を図っている。

< 単元の評価規準 >

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ	①「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) ②「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)	①進んで、文章を批判的に読み、学習課題に沿って考えたことを批評しようとしている。

< 単元の指導計画 (8時間) >

学習過程	学習活動	評価規準・評価方法等
学習の見通し (1)	○これまでの読書生活を振り返るとともに、□□の作品について、インターネット上のレビューを読み、どのように評価されているかを知る。 ○「□□の作品について、批評会を開く」という課題を設定し、学習の見通しをもつ。 ○モデルとなる批評文(教材文以外)を参考に、批評する際の視点を明確にする。	
精査・解釈 精査・解釈 考えの形成 考えの形成 共有 (2~5)	○教材文について、場面や登場人物の設定に着目して読み、「人物ファイル」を作成する。 〈人物ファイルにまとめる内容(例)〉 ・名前 ・外見の特徴 ・主人公との関係 ・エピソード ・物語上の役割 など ○批評する際の視点に沿って、自分なりの考えを端末上の思考ツールに整理する。 〈批評の視点(例)〉 ・人物の生き方や描かれ方 ・語り手の思いや考え ・構成や展開、表現の効果 ・登場人物と自分との考え方の違い など ○批評の視点に沿って整理した考えをグループで交流しながら、互いに気付いたことを付箋に書き出す。 ○教材文以外の□□の作品を並行して読む。	[思・判・表①] 人物ファイル ・登場人物の言動の意味や、登場人物と自分の考え方の違い等を考えているか確認 [思・判・表②] 端末上の思考ツール ・具体的な叙述を踏まえ、自分の考えを明確にもち、文章に表れているものの見方や考え方と比べたり、他者の考えと比べたりするなどして、自分の考えを広げたり、深めたりできているか確認
表現 共有 振り返り (6~8)	○□□の作品の中から、興味をもった作品を選び、文書作成ソフトを使って批評文を書く。 ○同一作品を選んでいる生徒同士でグループを編成し、批評会を開き、互いの批評文を読み合っ、考えたことや気付いたことを、文書作成ソフトのコメント機能を用いて入力し合う。 ○学級全体で□□の作品について批評し合ったことを交流する。 ○学習を通して学んだことや読書と自分の関わりについて、振り返りシートに記入し、単元全体を振り返る。	[主①] 観察 批評文へのコメント ・自分の考えを語り合ったり、互いの批評文を読んで、考えたことや気付いたことを書いたりしているか確認 [知・技①] 批評文、振り返りシート ・読書を通して考えが広がったり、深まったりしたことを実感しているか確認

【II 言語活動の設定】

・言語活動を提示する際、生徒が学習に対する目的意識をもてるよう、生徒の日常生活と関連した学習活動を設定している。

【II 批評文のモデルの提示】

・教師自身が事前に言語活動を行い、生徒の学習状況や評価のポイントを想定しながら批評文のモデルを作成している。

【III 1人1台端末の活用】

・批評の視点に沿って自分なりの考えを整理できるよう、付箋機能を活用して思考ツール(Yチャート等)に書き出したり、グループで交流しながら、互いに気付いたことを書き出したりできるようにしている。

【I 「考えの形成」の評価】

・批評する際の視点を明確にして整理する状況を見取り、考えの形成に至る過程を具体的に評価できるようにしている。

【III 1人1台端末の活用】

・共有の場面において、文書作成ソフトのコメント機能を活用して、互いの批評文に下線を引くなどして、考えたことや気付いたことを入力できるようにしている。